

令和 6 年度 県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校 自己評価表

目指す学校像	10 年先を透徹した生徒主体の探究型学習を通じ STUDENT AGENCY を育む		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
ICT・グローバル・探究の特色領域の強化と訴求が堅調に進展した。R5 単位制移行・附属中 1 期生高校進学に向けカリキュラム刷新を行った。教育品質向上のため、教科チーム体制の下で生徒主体の学びの強化を推進した (R5 以降も継続)。附属中設置から 3 年経ち、出向教職員を介した市町村立校からの知識移転が完了した今、中高の垣根のない 6 年一貫した学校づくりを始める機が熟したと言える。	【生徒】21 世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る (ラーニング)	総合知を用いた真正な探究学習を通じ本物の課題解決力を育む	A
		ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める	C
		開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する力を育てる	B
		最先端のデータ・デジタル技術を身に着けた、卓越したイノベーション人材を育てる	C
		異文化との接触を当たり前の日常にする	B
	【学校・教職員】時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う (オペレーション)	ポストヒューマン時代の生き方を啓発し学ぶ動機につなげる	A
		カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する	B
		生徒の AGENCY (自由と責任を扱う力) を育む学校生活を演出する	B
		多様な学びを促進する学習環境を提供する	B
		国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する	C
【地域】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる (マーケティング)	組織の生産性と財務効率を高める	B	
	内外から信頼される学校運営を行う	B	
	アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	A	
		竜一の価値を効果的に伝え優良な関係者との縁を築く	A
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	【生徒】 21 世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る 【学校・教職員】 時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う 【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○高等学校全日課程 本校の教育課程 (カリキュラム) ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材 ○附属中学校 本校の教育課程 (カリキュラム) ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材	

別紙様式2 (中高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	担当部署	評価	次年度(学期)への 主な課題	
【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る(ラーニング)	総合知を用いた真正な探究学習を通じ本物の課題解決力を育む(SSHテーマI)	「総合知」を理解し身に着けるためのカリキュラムを開発する	探究	B	A	・探究に後ろ向きな教員への指導・支援 ・高校スタンダードコース生に対するオンボーディング ・社会調査・データ分析の質向上 ・理数探究の発展的解消と文理融合の推進
		全ての教員が探究のコーチングをできるようにする	探究	C		
		多様な人材の知を活用した「開かれた学び」を実践する	探究	A		
		「イノベーション力」を測定する客観指標を開発する(ルーブリック等)	探究	A		
		探究のシラバス・教材をHPで公開する	探究	B		
		探究テーマごとのメンタープールを構築する	探究	B		
		卒業生・保護者等の調査パネルを組織する	探究、P&A	B		
		社会調査法のノウハウを探究のカリキュラムに導入する	探究、地歴科	B		
	ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める(SSHテーマII)	質の高い生徒主体の授業を実践する(個人)	学習	B	C	・授業研究の継続 ・教科職員室の設置をてこにした専門体制の確立 ・社数：R6の成功モデルの展開・定着 理英：振り返りと改善 国：思考力型に対する教科横断での貢献 ・学力分析基盤の運用着手 ・思考力型に対応したカリキュラムの開発
		教員同士で学び合う専門家集団(PLC)となる(チーム)	学習	A		
		記憶の再生を超え、生徒の思考力・判断力を伸ばす	学習	B		
		主体的に学びに向かうAGENCYを育てる	学習	B		
		ICTを用いて情報提示を超えた(個に応じた/協働的な)学びを行う	学習	B		
		データにもとづく科学的な到達度管理を行う	DD	C		
		6年一貫した指導方針(Rプログラム)を開発する	学習	C		
		継続的なスパイラル型学習により基礎学力をつける	数学科	B		
		まとまった量の文章を読み書きする能力を育てる	国語科	B		
		実効性ある少人数授業を開発する(習熟度/学び合い)	学習	B		
	ニーズに合った質の高い課外・特別講座を提供する	学習、教務	C			
	開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する力を育てる(SSHテーマIII)	国内外の良質な学会やコンテストを調査・選定する	探究	B	B	・品質にこだわった校外資源の開拓・取捨(継続) ・地域の異文化資源の開拓(同) ・アート(STEAMのA)を育てる機会の拡充 ・生徒の主体的活動のさらなる充実(校外学習・修学旅行の行き先など)
		探究とサイエンス部・英語部・自主課外の連携を強化する	探究、各部活動顧問	B		
		異文化体験や協働型の活動を強化する(SSH行事や特別活動)	探究、グロ、キャ、特活	B		
		生徒の主体性や創造力を発揮する機会を設ける(SSH行事や特別活動)	探究、グロ、キャ、特活	B		
		総合知を含む内容の質向上や拡充を行う(SSH行事や特別活動)	探究、グロ、キャ、特活	B		
		キャリアとの関連で探究を考えられる行事を企画、拡充する	探究、キャ	A		
	最先端のデータ・デジタル技術を身に着けた、卓越したイノベーション人材を育てる(SSH重点枠)	高度情報教育を通じ情報分野の卓越人材を育成する	宮内、情報科	C	C	・計画性や戦略性をもって動くこと ・やって終わりではなく、結果や品質にコミットすること ・情報科以外の教員や校外の人材など周囲を巻き込んで動くこと
		課外活動と良質な国内外のコンテストを通じ情報分野の卓越人材を育成する	宮内、情報科	B		
		データ・デジタル技術を活用した先端的な探究プログラムを開発する	探究、情報科、DD	B		
生成AIを活用し探究の効果・効率を向上する		探究、情報科、DD	B			
数値解析ツールやCAEツールを活用した理数探究のカリキュラムを開発する		探究、数学科、理科、情報科	C			
「白幡情報」について実践家とのTTの体制を構築する		役員、情報科	C			

別紙様式2 (中高)

	異文化との接触を当たり前の日常にする	4(5)技能にわたる英語の基礎学力を定着させる	英語科	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・言語志向の活動（スピーチコンテスト等）から異文化型／探究型活動への切り替え ・海外進学啓発（附中～高1）と進路支援 ・ALTの活用推進（附中～アドバンス）
		地域交流・姉妹校開拓等を通じ、継続的な異文化交流の場を構築する	グロ	C		
		英語部をグローバル探究活動の中心として活性化する	グロ、英語科	C		
		地域の多文化資源を教育資源に替える	グロ、探究	A		
		留学や海外交流プログラムへの参加を促進する	グロ	B		
		探究やSTEAM教育に取り組む国内外の学校・関係団体との連携を強化する	PD	B		
		異文化間での協働を通じたイノベーション創発活動を開発する	探究、グロ	B		
	ポストヒューマン時代の生き方を啓発し学ぶ動機につなげる	6年間のキャリア教育カリキュラムを設計する	キャ	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ動機につながるキャリア教育プログラムの開発・充実
		社会に開かれたキャリア教育を実施する	キャ	A		
		有効なキャリア教育資源をプールする	キャ、PD	B		
【学校・教職員】時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う（オペレーション）	カリキュラム・ポリシーにもとづく6年間一貫した学びを提供する	シラバスにもとづく計画的な授業実践を行う	教務、学習	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価・報告のシンプル化と客観性向上 ・課題（人）の特定・対策のサイクルタイム削減 ・附属中一体運営の常態化・ガバナンス強化
		月次での振り返りと報告を徹底する（カリマネ）	主任・部長	B		
		エビデンスベースでの計画と意思決定を行う	DD	C		
		単位制を活かした中高一貫の教育課程を継続的に改善する	校長、教務	B		
		3フェーズ型に応じた人事・人材開発の方針を固める	校長	A		
		R7加配に向けた準備を行う	教務、学習	B		
	生徒のAGENCY(自由と責任を扱う力)を育む学校生活を演出する	HRを安心・安全のホームグラウンドにする	担任、副担任	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の自治能力獲得に向けた支援の継続 ・自主課外活動の認知向上 ・部活動に留まらない多様な活動の推進
		校内のルールをスリムで時代に合ったものとする	生支	B		
		生徒会の自治機能を再興する	特活	B		
		学校行事やホームルーム活動（含委員会）を生徒主体の活動とする	特活	A		
	多様な学びを促進する学習環境を提供する	いつでもどこでも円滑にインターネットに接続できるICT環境を維持する	情メ	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・WiFi APの配置・設定の最適化、インフラの総ファイバ化 ・生徒が集う特別棟リノベーションの空間設計
		生徒の読書習慣を強化する（次世代の図書館機能）	情メ	B		
中高生とも気持ちよく利用できる飛龍館にする		学習、進路、情メ	C			
生徒が集うラーニングコモンズを構築する		情メ、情報	A			
国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する	難関大学への進学を支援する	進路	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援機能の抜本的見直しと質向上 ・進路支援室の再生 ・海外進学に関する進路支援着手 	
	各教科の思考力型問題を効率的に読み解き、論述する力を付与する	進路、国語科	B			
	エビデンスにもとづく出口指導のノウハウを構築する	進路	C			
	探究型の学びの出口として総合型入試を積極的に活用する	進路	C			
	海外進学を支援するプログラムを樹立する	グロ、進路	B			
組織の生産性と財務効率を高める（働き方改革）	業務（会議・手順・儀式等）の簡素化と断捨離を行う	教務、主任・部長	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・投資の選択と集中 ・紙媒体のデジタル化（業務連絡や日誌など） ・事務処理と判断の弁別 ・PTA関連予算の効果的活用 	
	俯瞰的な人・物・金の動きを可視化する	事務	B			
	県費、助成費等の投資管理を徹底する	事務、関係する教職員	A			
	表簿・帳票を電子化・自動化する	教務、DD、事務	B			
	情報共有を促進・迅速化する	教務、事務	B			
	紙媒体の出版物の効果を評価し、取捨する	各組織	B			
内外から信頼される学校運営	校内での生徒事故・災害を防止する	教頭、保健	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうれんそう・起案承認の 	

別紙様式2 (中高)

	を行う	インシデント情報を速やかに報告する	教頭、保健、全教職員	C	徹底(継続) ・現金の扱いの最小化(同) ・時代に応じた言葉遣いや生徒対応 ・ネット系の問題行動への対応力向上 ・個人情報保護の徹底(同) ・事務処理の標準化とチェック体制の構築 ・部活動運営の適正化(同) ・心の問題、ADHD等の生徒への対応についての教員研修
		法令に則ったいじめ防止対策を講ずる	教頭、いじ防	A	
		教職員による不祥事を防止する	校長、教頭	B	
		堅牢な情報セキュリティ・個人情報保護を維持する	教頭、情メ、事務	B	
		正確な事務処理を行う	事務職員	B	
		会計ガバナンスを徹底する	事務室長	A	
		ミスのない入学者選抜業務を行う	校長、教頭、学検委	A	
		理性的な大人の職場を維持する	教頭	B	
		適正な部活動運営を行う	特活	B	
		生徒の心の問題に効果的に対応する	保健	B	
		「ほうれんそう」と起案を徹底する	教頭、全教職員	C	
		【地域】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる(マーケティング)	アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	ターゲット層を定め戦略的に開拓する	
ターゲット層に向け学校の魅力を効果的に伝える	マケ			A	
特色入試を含めた生徒募集形態を最適化する	校長			B	
竜一の価値を効果的に伝え優良な関係者との縁を築く	タイムリーに学校のニュースを配信する		PR	C	A ・HPの抜本的な質向上 ・プレスリリースのタイムリーな発行 ・対外的活動を担える成熟した教員の獲得・育成 ・マーケティングスキルのさらなる習得と戦略性向上
	適切な媒体で竜一の考えや価値を発信しつながりを醸成する		マケ	A	
	優良なステークホルダーとの縁を築く		PD	A	
	OB / PTAとの良好な関係を維持し学校への支援をいただく		P&A	B	
	学校活動を地域に公開する		教務	B	
	学校行事を地域にライブ配信する		情メ	B	
	海外における竜一の認知を高め異文化のネットワークを築く		マケ、グロ	C	
	探究活動の状況や成果を継続的に対外的に発信する		探究、マケ	B	
	学校生活の楽しみを生徒目線で発信する		マケ	A	

※ 評価規準：A(達成された)、B(ほぼ達成された)、C(達成されなかった)

別紙様式2 (中高)

<教科・学年の詳細>

国語	模試過年度比	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。	C	B	指摘のあった改善点を工夫する
	授業満足度 3.6 以上	前期アンケート結果に基づき、後期の授業改善へと結びつける。	C		教科での研修会を増やし、授業改善に取り組む。
	附属中 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎学力を確立させ、国語に対する興味関心を育てる。	年間を通して小テストによる振り返りを実施し、語彙力・国語に対する基礎学力を身につけさせる。	B	B	・漢字検定の目標設定をどうするか（下方修正するか） ・速読を実施する際、高校との連携を確認する。
		現代文の授業において、論理的に文章を読解する技術を身につけ、文章に積極的に取り組む姿勢を育てる。	A		
		古典に対する興味関心をもたせつつ、基本的な文法事項や句法についても理解させる。	A		
	1年 評論文、実用的文章、小説、古文、漢文を読むための知識及び思考力の基礎を養う。	読解や思考の前提となる語彙力を高める。また古典では正確に文法を理解する。	A	B	今年度築いた土台の学力を基に論理的思考、読解、表現の応用力をつけさせる
		ICTなども活用して、論理的に文章を読解し思考する力を育てる。	A		
		文学的文章の読解や言語活動を通して、思考の幅を広げる。	B		
	2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野を計画的に学習させ、基礎から応用へのステップアップを図る。	A	B	受験に対応できる力を身につけさせるため、力を適切に見取り、計画性をもって授業を組み立てていく
		現代語・古語の語彙力を確かなものにする。	A		
授業や考査の中で大学入試を意識した問題の扱いを徐々に増やし、受験に対応できる学力を身につけさせる。		B			
3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	A	3年間を振り返って効果的だった取り組みを分析し、次学年へ情報共有したい	
	小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。	B			
	知識問題についての段階的指導を完成させ、入試に対応する実践力を高める。	A			
地理歴史 ・公民・社会	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。	C	B	知識と思考力の両面で高い数値をあげ続ける
	授業満足度 3.6 以上	教材研究と教員間の研鑽を進め、アドバンスコースにおいては高度な内容の問いかけと生徒主体の授業の試みを実践する。	A		科目間の差が縮まるよう、授業改善に取り組む。
	附属中 基礎的な学習内容の習得と、主体的に学ぶ姿勢を身につける。	授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A	B	生徒それぞれの個性に合わせた動機づけの手法の研究を進める
		生徒それぞれの個性や興味関心に合わせた動機づけを意識しながら、主体的に学ぶ意識を育成する授業展開を行う。	B		
	1年 重要概念の理解および概念を利用して思考・判断できる能力を育成する。	積極的な ICT の利用、および生徒主体の学びの手法を研究し、探究的学習の実践を通じた、重要概念の理解と思考・判断の能力育成をはかる。	A	B	各人が実践している様々な取り組みを共有し、互いに影響を与え合う機会を増やす
		新課程科目（歴史総合・公共・地理総合）における実践の成果、および評価の手法の、共有・深化を進める。	B		
	2年 1年で獲得した能力を基盤として、受験に対応できる学力を育成する。	ICTの利用を積極的に進めつつ、主体的な学びの手法を発展、継続させることによって、論理的思考に裏づけられた内容の理解をめざす。	B	B	主体的な学びから受験に対応できる体系的知識への移行の手法を実践・探究する
		地理歴史・公民における論理的理解を基礎として、受験に対応できる知識の確実な習得と定着をはかる。	A		
	3年 主体的な学びの意識を継続したまま、受験に対応した学力を確立する。	過去のセンター試験や共通テストならびに大学入試問題等を十分に研究してその成果を教員間で共有し、学習指導の改善をはかる。	A	A	共通テストや大学入試問題の研究は実践できた。その方向をさらに深めて共有したい
		論述問題への対策が必要な生徒に対しては、個別指導を中心に高度な問題に対応できる能力を獲得できるよう支援する。	A		
数学	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。	C	B	各自の工夫した取り組みの共有の機会を設定する
	授業満足度 3.6 以上	前期アンケート結果に基づき、後期の授業改善へと結びつける。	A		評価の高い授業担当者をさらに増やす。
	附属中 様々な数学的な見方や考え方を学び、数学に対する関心や意欲を高め、学	日々の授業において、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図り、それを基に思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A	A	課題の取り組み状況やテストの結果に応じた個別対応を充実させていく

別紙様式2 (中高)

	学習習慣を身につけ、中学校数学の基礎を固める。	授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A			
		定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	A			
	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着や習熟に応じた発展的な内容を探究的に取り組ませる。	B	A	アドバンスコース内の授業展開の在り方について、生徒の実情に応じた柔軟な対応をしていく	
		デジタル機材を通して、教材表示や、課題配布を行う。	B			
		授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	B			
		定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	A			
	2年 科目の重要性を生徒に意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。	学習に取り組みやすく、理解を深められるように、授業展開や進度の工夫を行う。	A	A	大学入試に対応できる思考力の育成を目指す	
		年間を通じて、精選した課題を与え、生徒の取り組みを徹底させる。	A			
		授業進度に合わせて定期的に小テストや章末テストを実施し、基礎学力の定着と向上を図る。	A			
	3年 生徒の進路実現に向け、大学入試に必要な学力を身に付ける。	大学入試を意識した授業を実践する。	A	A	基本的な知識の定着が図れるような取り組みが必要	
		各テストを通して、計画的な学習を支援する。	A			
		各分野の問題演習を通じて、大学入試に対応できる能力を養う。	A			
理科	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。	C	C	生徒からの声を参考にしながら、授業改善に努める 教科での研修を増やし、授業改善に取り組む。	
	授業満足度 3.6 以上	生徒の学習に対する積極性を高めていくこと。学習の理解度・到達度等に関してアンケートを用いて確認し、授業の展開方法を担当者間で密に話し合うことを心掛ける。	C			
	授業内容を深化させ、各生徒が希望進路を実現できる基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを積極的に行う。授業研究を有効に活用していくことを心掛ける。	A	A	授業研究については、校内で行う2回の研究以外にも、来客への公開授業も含めて、広く共有することで、授業力向上を図る	
		生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストによる振り返りを通して学習習慣の確立を図る。	A			
		必要に応じ、担当者が個別面談・指導を行い、より高いレベル(難関大学対応)での学力を身につけさせる。	A			
	自然や自然現象に対する興味・関心を高め、知識の活用能力と思考力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、基礎的概念理解の深化を図る。	B	A	特別棟長寿命化耐震工事の伴う実験室の使用ができない中で、教室でできる生徒実験等の開発、工夫が必要である	
		S S H事業と連携し、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高め、知識の活用を促す。	A			
		I C Tを活用して質の高い生徒主体の授業を実践し、授業への興味・関心を高め、より深い思考力を育てる。	A			
	保健体育	授業満足度の平均値が 3.6 以上	I C T を積極的に用いながら課題解決の意欲を高めていくことで種目の持つ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを促す。	C	C	I C T を使って興味をさらに引き出せるように授業改善を行う。
		各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	B	B	個人及び社会生活における健康・安全について理解を含め、積極的に運動に取り組む姿勢を身に付けることができた。
各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。			B			
各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。			B			
熱中症や怪我を防止するため、安全管理に留意して授業を行う。			B			
健康に対する意識・実践力を育む。		健康に対する知識や実践力を養い、課題解決能力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	B	B	健康を保持増進するために具体的な取り組みを考え、より深く興味関心を引き出すことができた。	
		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	B			
		I C Tを活用して視聴覚教材を積極的に提示することで、授業への興味・関心を高め、より深い理解を促す。	B			

別紙様式2 (中高)

芸術	授業満足度の平均値が 3.6 以上	提出物や実技発表を通して技能の習熟度を図り、成功体験を積み重ねることで授業への積極的な取り組みを促す。	C	C	科目毎の特性を活かした授業となるように、教材研究を行い授業改善に繋げる。
	芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術の諸能力を伸ばし芸術文化についての理解を深める。	表現及び鑑賞の活動において、ICT を効果的に活用する	B	B	今後も実技を中心としながらも ICT を効果的に活用し、多様な芸術体験を経験させ、芸術への興味・関心・感性を高める授業に努める。
		多様な芸術表現を経験する中で、他者と協働しながら表現を生み出したり、表現したりするための技能を身に付ける。	A		
		日本や諸外国の芸術作品を鑑賞し、理解を深める。	A		
英語	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。	C		言語活動の長期的な計画を見直したい。
	授業満足度 3.6 以上	互見授業や授業者間の意見交換による授業改善を通して、生徒のやる気や知的好奇心を引き出す授業を実践する。	C	C	教科での研修を増やし、授業改善に取り組む。
	附属中 英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週の単語小テストで振り返りつつ定着させることで、基本的な語彙を身につけさせる。	B	B	全体的に4技能5領域において基礎力を育成することができたが、英語を苦手とする生徒への個別の支援が必要。
基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。		B			
授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。		B			
ALT とのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。		A			
	1年 主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能5領域について基礎学力の定着を図る。	BYOD 端末を活用し、効果的なアクティビティ活動を取り入れる。	B	B	ディベート活動やオンライン英会話が不足していたため、来年度は機会増を図る必要がある。
ICT を活用し、国内外の情報を授業に取り入れる。		B			
教員間の連携を強化し、指導の明確化や生徒の適切な評価につなげる。		A			
ALT とのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。		A			
外部英語検定受験を奨励し、CEFR A2レベル (英検準2級以上) の力を身に付ける。		B			
ディベート活動やオンライン英会話を通して、思考力と表現力を身につける。		B			
	2年 主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能5領域について学力の向上を図る。	毎週の単語小テストで振り返りつつ定着させることで、大学入試に必要な語彙を身につける。	B	B	年間を通して、コミュニケーションな授業を徹底できなかったため、来年度はさらにディベート・ディスカッションを計画的に実施していく。
基本文法事項を習熟させ、英文を読み要約する力と、論理的に書く力を高める。		B			
授業や家庭学習でのリスニング学習を定着させ、英語を聞く力を養う。		B			
ALT とのチームティーチングを通して、自然な英語表現を使って自己の考えを述べる力を身につける。		A			
外部英語検定受験を奨励し、CEFR B1以上の力を身につける。		B			
英語によるディベート活動やディスカッション活動を実施し、英語の運用能力と論理的思考力を身につける。		B			
	3年 英語運用能力を修め、進路実現に必要な知識を習得する。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせるとともに、新しい入試形式を研究し、対応できる英語力の育成を図る	B	B	生徒の実態に合わせた指導ができた。英語を苦手とする生徒への個別の支援を充実させたい。
各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。		B			
生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。		B			
授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。		B			
家庭	授業満足度の平均値が 3.6 以上	授業の理解度、実習の進捗度の把握に努め、個に応じた指導の徹底を図る。主体性を引き出せるような課題設定、発問に努める。	C	C	個に応じた学習を工夫、充実させていく。
	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した具体例の提示や実践活動を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。	B	B	実習時間の年間計画への効果的な配置と十分な時間を確保する。
	家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	生活の中心から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、学びを深める。	B	A	課題解決能力の一層の深化と充実のため他教科、領域との連携を引き続き図る。
		ホームプロジェクトの実践を通して様々な討論法による自己表現力の向上と自己理解を通しての課題解決を図る。	A		
	生活の充実向上を図る力と実践的な態度	ICT 機器等を利用し、事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。	A	B	確かな知識と技術の獲得に向けて、ICT 活用の推進を今後も継続

別紙様式2 (中高)

	を育成する。	実生活を振り返り、各分野にわたり生活の充実と質の向上の観点から考察できる能力態度を身につける。自立し生活する能力を習得する。	B		していく。
情報・技術	授業満足度の平均値が3.6以上	授業ごとのアンケートや小テストを通じて生徒の理解度と疑問点を把握し、コメント機能なども用いて問題を解決できるようにする。	C	C	生徒自身が成長をより実感できるようなカリキュラムを工夫する。
	生徒のICT活用能力を育て、それらを積極的に問題解決に活用しようとする態度を身に付けさせる。	Google Suiteの機能を活用した問題解決能力を育成する。	B	B	教科横断型授業の開発と実践を促進する。教員間の意見交換や相互協力の充実が必要。
		プログラミングとそれをを用いた問題解決能力を育成する。	B		
		教科横断型の授業を実施し、深い学びを実現するとともに、生徒にICTを学習および生活に活用する態度を育成する。	B		
	生徒に情報技術や情報社会について理解させるとともに、様々な場面で適切な判断や行動ができるようにする。	情報技術に関する本質的で深い理解を促す授業を実践し、試験に対応できる十分な学力及び思考力を育成する。	A	B	十分な学力の育成を図るため、入試分析と授業の質を高めるための研究を引き続き継続する。
		情報を適切に扱い、表現できる情報デザインの知識と技術を身に付けさせる。	B		
		情報技術の活用や、情報社会での生活における正しい態度と行動がとれるように、具体的な場面で指導する。	B		
生徒の探究活動に必要な資質、および能力を育成し、社会参画の意欲および起業家精神を育てる。	AIなどの先端技術を理解し活用する授業の実践を行う。	B	B	外部人材を活用し、社会的な価値を生み出すための実践的取り組みを進める。	
	身の回りや地域の課題を解決する情報技術の提案と実装を行う実践的授業を行う。	B			
	公的統計データを含むデータの活用と分析を行う授業を実践する。	A			
附属中	基本的な生活習慣の確立	服装や言葉遣い、時間やルールの遵守を中心に、自律した学校生活を送れるよう、授業や学校行事、休み時間等を通して、教員間や家庭と連携して生徒の社会性が育つよう指導する。	B	B	社会性をもち、清々しく、自律的な生徒を育む支援の在り方を検討していく。
	学習習慣の確立と学力の向上	面談やICTを活用し、予習・復習や家庭学習の状況を把握し、個の能力や環境に合わせて適切に指導する。 生徒の興味や関心、個性を教育活動で引き出し、コンテスト等何事にも積極的かつ献身的に挑戦しようとする機会を設ける。 少人数学習の実施やICTの活用を通して、個に応じた学習指導を展開する。 中高一貫教育校の強みを活かして、学習の先取りや深い学び、異年齢学習、探究的な学習を実践し、生徒の能力の伸長を図る。	B	B	個々の生徒の家庭学習の状況について、各教科担当と担任で連携を図り、教科間の課題量を適切にコントロールする必要がある。 生徒の興味・関心を高める授業づくりに努めていく。
	キャリア教育の充実	探究活動ならびに企業・研究所訪問や外部講師による講演会、模擬授業等を通して、知識や思考力の向上を図るとともに将来の職業について考えさせ、憧れのイメージをもたせる。 語学研修やICTを用いた海外の中高生等との交流により視野を広げ、世界に羽ばたく人材の育成を目指す。	A	A	STEAM教育の視点と本校が必要としている分野のキャリア教育プログラム外部講師の更なる開拓が必要である。
	心身の健康管理	複数担任制を展開し、多感な年齢の生徒のみならず不安を抱える保護者へのサポートの充実を図る。 年間3回以上の面談を実施する。また、教員間や保護者、スクールカウンセラーと連携し、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援する。	B	A	引き続き、保護者、教員間での連携をとりつつ、関係機関やSC、SSW等ともつなげていきたい。
	働き方改革	公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン（文部科学省）に則り、在校等時間（校外での勤務を含む）について1か月の超過勤務45時間以内、1年間の超過勤務360時間以内を目指す。そのために原則定時の出退勤と有休・代休の消化を心掛け、中学・高校を通じた業務の共通化、仕事の精選と分散、ICTの活用等で会議や仕事の効率化・生産性を向上させる。	A	A	年間の超過勤務360時間以内0人、ストレスチェックの要配慮者0人を継続していく。
第1学年	生活習慣の確立とコミュニケーションの促進	挨拶の励行や、時間・期限の厳守等、凡事徹底を図り、安定した生活習慣を確立させる。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し、学年内の人間関係を活性化させる。	B	B	生活習慣確立と人間関係活性化はほぼ達成できた。次年度もさらに継続させたい。
	基礎学力の定着と自学習の充実	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	基礎学力定着に関してはまだまだ充分には達成できていない。積極的な意欲的な学習についても課題が残っている状況なので来年度は工夫した指導を考えていきたい。
		生徒が授業内容を確実に定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、ICT端末を活用した学びを積極的に取り入れて、学習意欲と協働的学習の質の向上を図る。	B		
		手帳を活用しながら、自主的に計画を立て行動する力を身につけさせる。 (アドバンスコース)内進生と高入生による多様性を活かし、生徒主体の学びを開拓する。	B		
キャリア教育の充実	LHRの時間を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に向けて適切な指導を行う。	B	B	FMTや先輩の語る社会を学ぶ会に関しては、生徒にとって有意義な時間となった。このような行事をさらに充実させていきたい。	

別紙様式2 (中高)

		進路指導部や探究部、DX、グローバルと連携し、生徒の進路目標の設定に意義のある行事を企画・実施する。	B			
		生徒の勤労観・職業観を育むために、卒業生やPTAと連携した講演会を企画・実施する。	B			
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部やスクールカウンセラー、保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	B	B	カウンセリングの積極的な取入れができた。	
第2学年	生活習慣の確立とコミュニケーションの促進	挨拶の励行や、時間・期限の厳守など、凡事徹底を図り、安定した生活習慣を確立させる。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し、学年内の人間関係を活性化させる。	B	B	行事などを通して、人間関係の構築ができた。	
	学習習慣の確立と学力の定着	授業を中心とした予習復習のサイクルの確立と家庭学習時間の確保ができるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	B	B	学習時間がなかなか伸びてこないのが現状である。受験を意識させる取り組みをしていく必要がある。	
		生徒が確実に学習内容を定着できるように、各教科で効果的な指導法を工夫するとともに、ICTも用いて、質の高い授業を提供する。	B			
		手帳などを活用しながら、生徒自身が主体的に計画を立て行動する力を身につけさせる。	B			
		全てのコースにおいて探究活動に取り組みせ、論理的思考力、問題解決能力を向上させる。	B			
	キャリア教育の充実	LHRや進路行事(学部・学科研究やRガイダンス)などを通じて進路意識を高め、自分の進路希望を具体化させる。	A	A	B	学部学科研究などの行事を実施した。来年は、新課程2年目となるので、77回生の事例を参考にしながら進めていきたい。
進路指導部と連携し、新課程入試に関する情報を収集し、生徒・保護者に適切に提供することで、少しでも安心して大学受験に臨めるよう配慮する。また、積極的に模擬試験を活用し、新課程入試への準備・分析を進める。		B				
進路指導部、探究部、グローバルと連携し、様々な入試方法で国内外の難関/優良大学への進学を目指せる体制をつくり、生徒の進路実現の可能性を広げる。		B				
心身の健康管理	生徒一人一人が安心して健康的に学校生活が送れるように、保健部や保護者、スクールカウンセラーと連携し、諸問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。諸問題にはいじめの防止も含む。	A	A		スクールカウンセラーを大いに活用できた。	
働き方改革	業務の見える化を行い学年内で適切に業務を分担することで、個々の職員が力を発揮できる学年環境を整える。	B	B		先生方は、自分の役割を確実に遂行してくれた。	
第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	B	B		学習姿勢については個人に委ねる部分も大きかった。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題・指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。	B	B	科目や学年間で調整をして指導の方向性を概ね統一することができた。特に、特編授業や共通テストまでの学習スケジュールは適切で効果的であった。次年度以降も全体のスケジュールを見据えつつ、毎回の授業改善を進めていきたい。	
	基本的生活習慣の確立	定期考査・模擬試験の結果分析、大学入試問題の出題傾向の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	B			
		最上級生として、後輩の模範となるよう規律ある生活に努め、学校行事や部活動において、それぞれの持ち場で中心的役割を果たせるよう支援する。	B			
		手帳を活用しながら、学習を中心とした毎日の生活習慣を自己管理させるとともに、長期的な目標にむけて自主的に計画を立て行動できるよう支援する。	B			
	キャリア教育の充実	生徒の学習成績や進路情報を学年で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A	模擬試験の分析や各種研修会での情報を踏まえて、担任の先生と生徒との面談を中心としてきめ細かい進路指導を実施した。	
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	A			
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	B			
心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見に努め、教育相談部や養護教諭、保護者と連携しながら適切な支援を行う。	B	B		適切に各部署と連携し、生徒の健康管理に努めた。精神的負担が大きい高3において、大きな問題を抱える生徒が見られなかった。	

※ 評価規準：A（達成された）、B（ほぼ達成された）、C（達成されなかった）